

福祉

わかやま

寄り添い つながる 広報誌

vol.458

1 2026
月号



この広報誌の発行に
一部共同募金配分金を
利用しています。



防災とボランティア

みんな、つながっていきましょう

今月の表紙

防災ボランティア・デイキャ
ンプでのロープワーク
(トラック結び)体験の
様子
(2〜4Pに関連記事)



社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会

防災とボランティア

～みんな、つながっていこうよ～



▲能登半島地震・羽咋市社協のみなさんと

阪神・淡路大震災（1995年）を契機として、災害時のボランティア活動や自主的な取組を促進し、災害への備えを充実させることを目的に、「防災とボランティアの日」（1月17日）および「防災とボランティア週間」（1月15日～21日）が定められています。

災害時のボランティアは、被災者に寄り添い、励まし、勇気づける重要な存在であり、生活再建や地域復興に欠かせません。こうした支援を効果的に行うためには、災害ボランティアセンター（1*以下「災害VC」）が必要な役割を果たし、円滑に運営されることが重要です。

本県では、南海トラフ地震など大規模災害の発生が予測される中、令和6年能登半島地震等これまでの災害VC運営支援の経験を活かし、県内での備えに関する取組を進めています。

1*災害VCとは

被災地では地域の助け合いだけでは課題解決が難しいため、被災地内外のボランティアが支援を届けることが重要になります。多くの地域では、住民と日頃から深く関わり、状況を把握している地元の社会福祉協議会（以下「社協」）が、多様な機関と連携しながら災害VCを立ち上げ、ボランティアとともに「被災者中心・地元主体・協働」の三原則で被災者支援に取り組んでいます。

被災者に寄り添うために

災害VC運営業務の省力化・合理化に向けた取組

被災地の社協では、通常業務に加えて災害VCの運営が求められ、ボランティアの受け入れ・調整、被災者ニーズの把握、多機関との連携など多岐にわたる業務が発生します。被災者支援の三原則に基づき、寄り添った支援を継続するためには、災害VC運営の省力化・効率化と、県内外の協力者と連携できる体制づくりが不可欠です。

県社協では、全国の動向やこれまでの支援経験を踏まえ、令和6年9月からの試行を経て、令和7年4月より市町村社協とともに「災害VC運営支援システム」の導入を開始しました。このシステムにより、業務の効率化に加え、クラウド化による被災地外からの運営支援や活動状況の共有が可能となります。県内外で共通のシステムを活用することで、より円滑な受援体制の構築を目指し、勉強会や訓練を通じた活用と改善にも取り組んでいます。

災害VC運営に併せて、災害時に使用する資機材を平時から備蓄する「災害ボランティア活動支援資機材倉庫（ストックヤード）」を県内各地に20か所整備し、所在地や在庫を一元的に把握できるシステム管理化を進めています。これにより、資機材の種類や数量を県内の社協全体で共有・更新でき、広域災害時には市町村社協間で円滑に資機材を調整できるようになります。

災害VＣ運営システムの

導入により

期待できる主な効果

〈ボランティアの受付〉

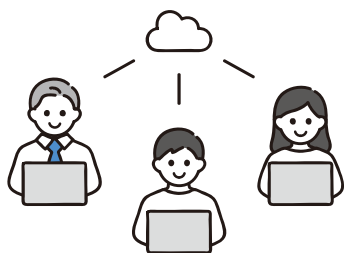
- 事前の定員管理が可能となり、過剰な参加による混乱を防げる。
- 当日の受付作業を大幅に効率化できる（ＱＲコードで簡易受付）。

〈ニーズ管理のシステム化〉

- 紙ベースで行っていた依頼者情報（ニーズ）管理をデジタル化し、省力化・共有化を実現。
- 進捗状況や残ニーズ数を簡単に把握でき、活動方針の検討に役立つ。
- 地図アプリの活用により、依頼者宅の位置確認や説明が容易になる。

〈システムの統一化〉

- 災害時に県内の各災害ＶＣの状況を県社協が一元管理できる。
- 県内外からの応援要員が同一システムを普段から利用することで、支援活動を円滑に実施できる。



資機材・ストックヤード管理に活用



業務課題検討会での共有



広域訓練で活用

『防災ボランティア・デイキャンプ』を実施

令和6年度よりスタートした防災ボランティア・デイキャンプは、令和6年能登半島地震におけるボランティア活動をきっかけにこれまで5回開催しました。

目的

- ① 助け合いに役立つ知識やスキルを学び、習慣づける
- ② 災害時にも支え合える大切な「人、もの」に出会い、つながる
- ③ 経験知・教訓を話す、聞く、伝え合う

体験プログラム

① ロープワーク

家財道具の運び出しからトラックへの積み込みを行う際の技法（結んだらほどけない、ほどくときはすぐほどける）



② 非常食に＋αグランプリ

白米やアルファ化米、クラッカー（乾パン）に添えるものを持ち寄って



③ 防災ミニ講話、防災クイズ

④ テント設営

ブルーシートと木（支柱）を使つてのテント立て

⑤ 防災フッキング

カレーやスープを耐熱性ポリ袋を使って

⑥ 「空き缶」ランづくり、ご飯を炊こう！

⑦ 火おこし（ファイヤースターターを使つて）、スイーツづくり（焼きいも）



体験の様子は次のページ

	日程	開催地	参加者数
第1回	令和6年 7月 25日	紀美野町のかみふれあい公園（紀美野町）	13人
第2回		野口オートキャンプ場（御坊市）	18人
第3回	令和6年 11月 19日	向平キャンプ村（白浜町）	18人
第4回		紀美野町のかみふれあい公園（紀美野町）	18人
第5回	令和7年 5月 9日	神野々緑地キャンプ場（橋本市）	17人

体験をとおして

参加者からは、「ロープワークは、普段から繰り返し練習をしておいた方がいざという時にすぐに役立つ」と思いました。「災害は突然、自分がどこに誰がいる時にやってくるか分からない、ということを改めて考えました。」といった意見がありました。

参加者同士の新たな出会いや再会を喜ばれている姿や、どのような思いでこの防災ボランティア・デイキャンプに参加したのか、いつも何を備えているか、車に積んでいるかなどのお話で盛り上がる姿が見られ、参加者同士の防災意識が高まる体験機会となりました。



オリエンテーション、レクリエーションの様子
ひとつのロープでつながるチーム



「非常食に+1 グランプリ」
クラッカーに合う非常食はどれかな？



ブルーシート、木、ロープで簡易テント立て



ロープワークの達人(ボランティア)指導のもと、
参加者全員で挑戦

みんな、つながっていこうよ。 Message

「災害ボランティア活動」というと、風水害で自宅に入った土砂をかき出したり、地震で壊れた家具を運び出したりといった力仕事のイメージを持つ人が多いかも知れませんが、それだけではありません。家の片付け・清掃／支援物資の仕分けや配布／炊き出し・配食の支援／避難所やサロン活動のお手伝い／訪問・傾聴活動／学習支援・遊び相手／交流イベントや相談会の運営支援／募金活動など多種多様です。

ボランティア活動は、被災者の困っていることにあわせて、「お手伝いしたい」という人が、自分にできることをすることであり、特定の人にしかできないことではありません。誰もが持つ「思いやりの心」を被災者・被災地にそっと差し伸べ、「あなたは、ひとりじゃないよ」と寄り添い、生活再建を共に歩む気持ちで活動することが最も大切です。

県災害ボランティアセンター

県災害ボランティアセンターでは、訓練や研修、集会やキャンプなどを企画・実践し、ボランティア活動のあり方や大切にしたいことを分かち合い、災害時にも助け合える「つながり」の強化をすすめています。これからも多くの方と出会い、ふれあい、つながってきたいと考えています。

災害ボランティア登録者に、
防災とボランティア活動情報を
届けています。
登録はこちらから





公益社団法人和歌山県労働者福祉協議会様に 募金活動のご協力をいただきました！

令和7年11月29日(土)、和歌山城西の丸・砂の丸広場にて、公益社団法人和歌山県労働者福祉協議会様主催の「第45回労働者福祉まつり」が開催されました。

和歌山県労働者福祉協議会様は、各加盟団体と連携され、労働者の福祉活動を総合的に推進し、労働者の経済的文化的地位の向上をはかるため、様々な取組を進めておられます。

その取組のひとつとして、和歌山県内の労働団体をはじめ多くの団体が集うイベントを主催されました。

「豊かで平和な地域づくりを、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指します」と、会長の山本龍一様から開会のご挨拶があり、今年のテーマとして「こどもたちが元気になるまつり！」を掲げ、盛大に開催されました。

ものづくり&体験コーナーや飲食コーナーが多数出店され、こどもから大人まで、1日中楽しめる『盛りだくさん』のイベントでした。

和歌山県労働者福祉協議会様は、当日受付前や本部テント等で募金箱を置いて下さり、募金活動にご協力いただきました。

また、和歌山工業高等専門学校様と連携いただき、「ロボットを動かすコントローラーを作ろう」のブース



において、参加費全額を赤い羽根共同募金へご寄付いただきました。

和歌山県共同募金会も当日は、募金ブースを設けて募金活動を行いました。

赤い羽根共同募金にもたくさんの方の募金をいただきました。

さらに、和歌山県労働者福祉協議会様は、主催されたチャリティコンペにおいて、参加された方々に赤い羽根共同募金の趣旨をご説明いた

き、ご協力いただいた募金を、昨年に引き続き和歌山県共同募金会にご寄付をいただきました。

チャリティコンペを通じて寄付をしていただいた方々に感謝いたします。



目録贈呈



感謝状お渡し

右:公益社団法人和歌山県労働者福祉協議会 会長 山本 龍一 様

左:和歌山県共同募金会 常務理事・事務局長 大山 茂

様々な募金活動にご協力いただいた和歌山県労働者福祉協議会様、ありがとうございました。

また、募金にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



犯罪被害者支援活動を 応援する募金が始まりました

「紀の国被害者支援センター」が、和歌山県共同募金会の認定を受け1月から3月にかけて募金活動を実施します。

この募金は、犯罪被害者支援の必要性とその活動を広く県民の皆様を知っていただくための活動に活用されます。

皆様のご協力よりしくお願いいたします。

●「紀の国被害者支援センター」について

事件や事故等により被害を受けた方やそのご家族は、直接的被害にとどまらず、経済面や精神面でも深刻な打撃を受けます。

「紀の国被害者支援センター」では、被害者やそのご家族に寄り添い、一日も早く平穏な生活を取り戻していただくことを目的に、相談や心のケアなどを実施するとともに社会的孤立を防ぐ活動を行っています。また、犯罪被害者の遺族を学校に招いて行う「命の授業」の実施や、自治会など地域に出向いて出前講座を開くなどの啓発活動を通じて地域の安全の実現を目指しています。

●募金期間

令和8年1月～3月末まで

●募金方法

ゆうちょ銀行からの口座振込

□座番号 0097091430

□座名義 社会福祉法人和歌山県共同募金会

【お問合せ先】

(福)和歌山県共同募金会

TEL 073-435-5231

(公)社 紀の国被害者支援センター

TEL 073-427-1000

赤い羽根 わかやま



メール info@akaihane-wakayama.or.jp

お問合せ先

社会福祉法人和歌山県共同募金会
〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛7階
TEL 073-435-5231 FAX 073-435-5232

HP <https://www.akaihane-wakayama.or.jp/>

Thank you!!

社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会は令和7年12月22日に

法人設立70周年を迎えました!

県社協が社会福祉法人としての認可を受け、設立登記を完了したのは昭和30年12月22日。60年の節目からの10年間、社会福祉法人制度改革や新型コロナウイルス感染症、災害対応等をはじめとする様々な課題に直面してきました。そうした課題に向き合う度にあらためて気づかされたのは、会員の皆さま

をはじめ、いつも県社協を支えてくださった多くの関係者の力、私たちがずっと大事にしなければならない「つながりの大切さ」でした。これまで県社協を支えてくださった皆さまへの感謝と共に、地域共生社会の実現に向けて、決意を新たに、地域生活課題への取組をすすめてまいります。

* この10年を振り返り、未来へ *

平成27年度… 県社協法人設立60周年記念事業実施(12月)

平成28年度… 社会福祉法人制度改革への対応・組織基盤の強化(会員制度見直し、諸規程改正等)

平成29年度… 第5次県社協活動計画スタート

制度の狭間にある福祉課題・生活課題解決への協働プロジェクト開始

社会福祉法人制度改革により「地域における公益的な取組」が責務化されたことを受け、地域貢献活動の促進・支援に取り組んでいました。



天美苑ふれあい食堂(中庸会)

平成30年度… 西日本豪雨災害における被災地支援活動(7月・岡山県倉敷市等)

令和 元年度… 第32回全国健康福祉祭和歌山大会(ねんりんピック紀の国わかやま2019)開催(11月)

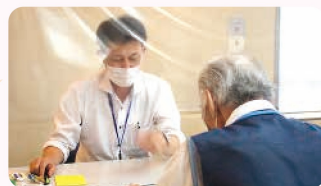
“あふれる情熱はじける笑顔”をスローガンに、全国から選手・関係者など約1万人が来県。本県から26種目594名の選手団が参加しました。



ねんりんピック紀の国わかやま2019

新型コロナウイルス感染症の拡大・特例貸付制度開始(令和2年3月~令和4年9月まで)

感染症拡大で減収した世帯を対象に県内で計32,043件の貸付を実施。現在も引き続き借受世帯等へのフォローアップ支援に取り組んでいます。



感染症に配慮した貸付相談

令和 2年度… 新型コロナウイルス感染症に関する諸対応推進
(オンライン普及・消毒液やマスクの寄贈調整等)

令和 3年度… 株式会社オークワと地域福祉の推進に係る連携協定を締結

株式会社オークワと県内企業初となる地域福祉推進連携協定を締結。精米のご寄贈は7トンを超えました。(令和7年10月末現在)



(株)オークワとの協定締結

令和 4年度… 第6次県社協活動計画スタート

令和 5年度… 梅雨前線及び台風2号による大雨災害対応(6月)

被害が最も大きかった海南市には社協職員179名の応援派遣を実施。県内5市町に3,111名のボランティアが駆けつけてくださいました。



海南市災害ボランティアセンター

能登半島地震災害における被災地支援活動(1月)

令和 6年度… 和歌山県子ども食堂応援ネットワーク事業開始

子ども食堂の立ち上げと持続的な運営を支援するため、本ネットワークを県より受託。県内の子ども食堂は142か所となりました。(令和7年10月末現在)



子ども食堂応援ネットワーク設立シンポジウム

令和 7年度… 県社協法人設立70周年記念事業(令和7年12月18日)

地域福祉推進フォーラム&きしゅうあったかマルシェ 2025開催

* 70周年記念事業の詳細は福祉わかやま2・3月号の特集で報告します。 *

記念事業にご参加、ご協力いただいたすべての皆さま、本当にありがとうございました!

「苦情対応力を高める」

―令和7年度福祉サービス苦情解決研修会を開催―

去る10月30日(木)、和歌山ビッグ愛で研修会を開催しました。受講者は84名(第三者委員、苦情解決責任者、苦情受付担当者等)でした。



講師の株式会社ユメコム代表取締役 橋本珠美氏から講義と演習で指導いただきました。

苦情のメカニズムや苦情対応の心構え・基本姿勢を学んだうえで、二次クレームを起こさないために、利用者や家族からの苦情があった場合の演習を、3〜4名ずつのグループに分かれて行いました。グループの代表者の発表後、講師より対応のポイントを説明していただきました。



参加者によるグループワークの様子

苦情対応の心構え・基本姿勢

- ①その苦情をスピーディーに誠意をもって処理する。
- ②その苦情に対して的確な回答をする。
- ③二次クレームを引き起こさない。
- ④その苦情処理で好感度を上げる。

研修に参加した受講者の感想

- 具体的な内容で、とてもよく理解できた。
- 事例に添った具体的な対応ポイントは、とても参考になった。職場でも共有したい。
- グループワークをしたことで、よりイメージしやすく勉強になった。

社会福祉事業の経営者は、常にその提供する福祉サービスについて、利用者等からの苦情の適切な解決に努めなければならないと社会福祉法に定められています。また、各事業所において、苦情解決を通じて福祉サービスの質を向上することは、利用者満足度を高める有効な手段になると考えられます。

【お問合せ先】

県福祉サービス運営適正化委員会
TEL 073・435・5215

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和7年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も左記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

寒い冬にピッタリ！
即席おしるこ

社会福祉法人やまのこども 就労継続B型施設マウンテンラブでは、利用されている方々が助け合いの精神を持ち、伸び伸びと仕事をする事が、社会人として自立した生活を送るための第一歩と考え、“仕事面だけでなく精神面も”を基本理念に、日々様々な商品を作っています。

今回は、お湯を入れるだけですぐにおいしい「即席おしるこ」をご紹介します。濃厚な甘みのある餡と、最中種^{もなかだね}のサクとした食感が非常にマッチしたこのおしるこは、菓子職人の経験がある職員直伝の製法で作られた、こだわりの逸品となっています。

郵送等での販売を行っているほか、和歌山市のふるさと納税の返礼品にもなっています。ぜひご賞味ください。

社会福祉法人やまのこども
就労継続B型施設マウンテンラブ

住 所 和歌山市吉原270番地

TEL 073-479-1133

お知らせ

第3回 福祉・介護・保育のしごとフェア

福祉の仕事に興味・関心のある方を対象に、田辺市で福祉職に特化した就職フェアを開催します。参加費無料。事前申込み不要。福祉の仕事の魅力にふれる機会です。ぜひ、ご参加ください。



日時 2月21日(土)13:00～15:00(受付12:30～)

会場 県立情報交流センター Big・U多目的ホール(田辺市新庄町3353-9)

内容 ①参加事業所との個別面談会 ②資格取得・なんでも相談コーナー
③求職登録コーナー ④職場見学・職場体験受付コーナー

【お問合せ先】紀南福祉人材バンク(田辺市社協内) TEL0739-26-4918

手話通訳・要約筆記・託児が必要な方は、2月5日(木)までに左記問合せ先までご連絡ください。

同時開催 「介護の仕事未経験者向け 介護入門講座・就職相談会」 参加費無料！

短時間で介護の基礎的な知識や実技を学ぶことができる
初心者向け講座です。講座後は、同会場で開催中のしごと
フェアへ参加し、現場職員の方と直接お話や質問ができます。

日時 2月21日(土)9:30～15:00

会場 県立情報交流センター Big・U 会議室2

定員 20名(先着順) 申込期日 2月16日(月)

【お問合せ・お申込み先】県介護普及センター TEL0739-22-6589

申込受付中

福祉人材キャリア形成支援研修

研 修 名	開催日時	会 場	受講申込期限
組織マネジメント基礎講座	1月27日(火)10:25～16:00 2月 6日(金)10:25～16:00	オンライン (Zoom)	1月 6日(火)
リスクマネジメント研修	2月13日(金)10:25～16:00	和歌山ビッグ愛	1月23日(金)
ラインケア研修 【管理監督職を対象としたメンタルヘルス研修】	2月20日(金)10:25～16:00		
処遇改善加算取得等支援研修【障がい福祉編】	2月26日(木)10:00～12:00	オンライン (Zoom)	2月 5日(木)
処遇改善加算取得等支援研修【高齢福祉編】	2月26日(木)13:30～15:30		

※研修の受講には、受講料がかかります。 ※県社協会員は、会員価格で受講いただけます。 ※定員(先着)になり次第締め切ります。

※感染症や自然災害等の事由によっては、中止になる場合があります。 ※詳細は県社協ホームページをご覧ください。 ※詳細は県社協ホームページをご覧ください。

【お問合せ先】県福祉人材センター ハートワーク(県社協内)TEL073-435-5210



読者アンケートはこちらから。読者の皆さまの声をお聞かせください！

この冊子は、環境に優しい植物油インキで印刷しています。

